

## 一般演題8-3

### 当院でのHBOに対する業務改善と過去3年間の実績

西山和芳 兵藤好行

JA愛知厚生連 豊田厚生病院 臨床工学技術科

#### 【背景】

当院は、愛知県の西三河北部を医療圏とした豊田市に位置し、ベッド数606床を有する基幹病院であるとともに市民病院的役割を担い、救命救急センターをはじめとした高機能基幹病院としての役割を果たしている。当臨床工学技術科も当院の持つべき高度医療機能を発揮できるよう様々な臨床支援業務に携わっている。また、西三河北部医療圏では、当院のみが高気圧酸素治療装置を有し、当科では1995年から各種疾患に対し高気圧酸素療法(HBO:Hyperbaric oxygen therapy)に携わっている。しかし、高気圧酸素療法の診療報酬点数や運用コストの問題から全国的に減少傾向であるのは周知の事実であり、当院においても同様の状況であった。また、同時期(2017年8月)に装置の更新時期も重なり運用に伴う業務改善が必要となった。今回、装置更新に伴う業務改善及び2018年度の診療報酬改定後の業務改善において良好な結果を得るに至ったので報告する。

#### 【業務改善内容】

2017年度の業務改善計画として、診療報酬点数の高い救急適応疾患の増加を目的とした。HBOの効果やエビデンスなどを、依頼数が多い診療科(耳鼻科及び外科)へ再度通達し、治療開始時期の見直しを行った。さらに2018年度には、診療報酬改定に伴う業務改善計画として、従来の非救急適応疾患症例で依頼件数の少なかった診療科及び、依頼のなかった診療科へのHBO適応拡大、治療回数、エビデンス等の情報提供を行った。

#### 【方法】

2016年4月～2018年10月までの期間の各年のHBO施行疾患数、施行回数、診療報酬点数の実績を基に2017年度の業務改善及び2018年度診療報酬改定後の取組みの影響について比較検討した。

#### 【結果】

2016年度のHBO施行疾患数は腸閉塞(33%)、突

発性難聴(48%)、一酸化炭素中毒(4%)、その他(15%)、施行回数409回、診療報酬点数1,157,600点であった。2017年度のHBO施行疾患数は腸閉塞(50%)、突発性難聴(36%)、一酸化炭素中毒(4%)、その他(10%)、施行回数646回、診療報酬点数2,418,800点であった。2018年度10月現在のHBO施行疾患数は腸閉塞(29%)、突発性難聴(25%)、難治性潰瘍(18%)、骨髄炎(11%)、放射線膀胱炎(10%)、その他(7%)、施行回数712回、診療報酬点数2,136,000点であった。2018年度現在までの実績をもとにした今年度の推定値は、施行回数1220回、診療報酬点数3,661,714点である。

#### 【考察】

2016年度のHBO施行疾患数は、腸閉塞、突発性難聴が全体の80%を占めている。腸閉塞では、発症後平均1日程度でHBO導入となっていたが、突発性難聴では発症後平均6.8日とHBO導入時期が遅めの傾向にあった。2017年度の耳鼻科への啓蒙活動により、突発性難聴におけるHBO導入時期が平均3.2日と短縮した。このことにより、救急症例数の飛躍的な増加に成功した。診療報酬改定が行われた2018年度に関しても、従来の非救急適応疾患症例などが飛躍的に増加したため良好な結果を得ることができた。当院のようにHBO装置があり、長年治療を行っている施設であってもHBOに対する医師の認識は残念ながら低いものであった。しかし、エビデンスや治療効果の情報提供などを行う事が症例数の増加に繋がったことなどから、情報の共有化は非常に有効なものであると考えられた。また、治療件数の多かった診療科に対しても同様の情報提供を行った結果、治療件数の増加だけではなく、再度疾患に対する勉強会などを通じて共通の認識を持つことが出来た。さらに、2018年度の業務改善では診療報酬改定により減収の見込みとなっていたが、これまで症例の少なかった診療科、依頼のなかった診療科に情報提供を行う事で増収という結果を得ることが出来た。今回の業務改善により医師との連携をより密にすることができたことから、医師との綿密なコミュニケーションは症例数の増加だけではなく、疾患に対する共通の認識をはかることもできるとともに、医療行為を行うために必要不可欠であり、今後も相互の情報提供を続けていきたいと考える。